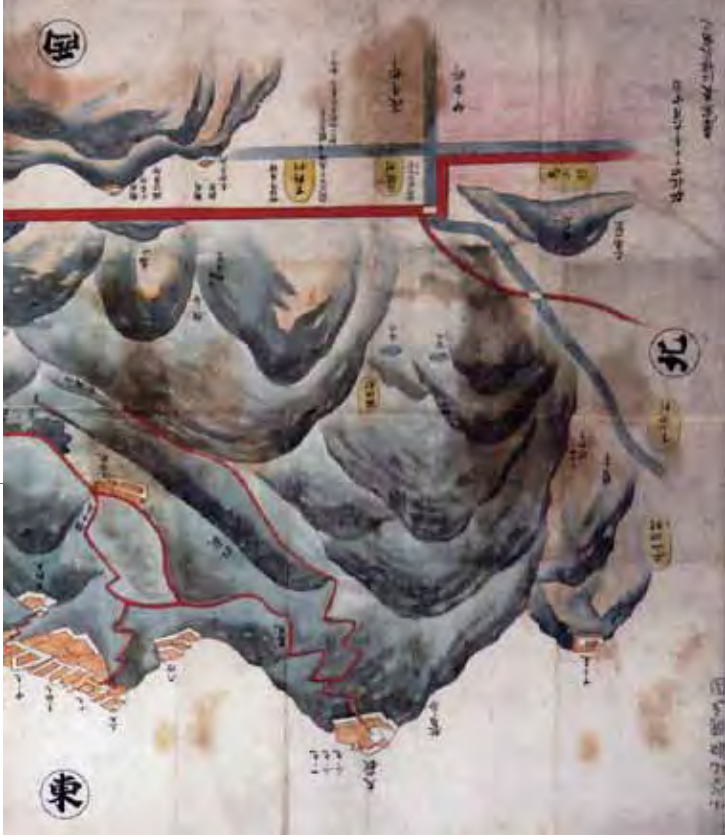


★小谷城と浅井家の歴史

浅井家は北近江三郡を領する京極家の家臣でしたが、浅井亮政の代に京極氏を傀儡とし、京極家の有力家臣達をも取り込み戦国大名への道を歩み始めます。南近江を領する六角氏は、こうした情勢に干渉してたびたび兵を進め、亮政の息子久政の代になると、京極氏の巻き返しもあって、久政の息子長政は六角氏家臣の平定武の娘を娶らされただけでなく、名乗りも当主六角義賢から一字取って「賢政」にさせられます。しかし、永禄3年（1560）、嫁を強制送還した長政は野良田の戦いで義賢に大勝利し、名実ともに独立した戦国大名となったのです。その浅井家の居城が小谷城。関ヶ原の西にある標高495mの急峻な小谷山に、大永9年（1524）浅井亮政により築かれたとされます。長政は、織田信長の妹お市と結婚し、信長と同盟を結びました。小谷城は長政とお市の結婚生活の場所であり、浅井三姉妹誕生の地でもあるのです。小谷落城後、北近江三郡を領した羽柴秀吉は、琵琶湖の水運を重視して長谷城を築き、小谷城を廃しました。小谷城の建物の多くは長谷城に移築されたとされ、そのうち小谷城の天守は彦根城西の丸に移築されたといわれています。



★浅井長政と織田信長

永禄11年（1568）、長政は信長の妹お市の方を正室に迎え、信長の上洛を手助けをしました。しかし、信長が浅井家と同盟関係にあった朝倉家を攻めたことで、長政は信長から離反し、元亀元年（1570）浅井・朝倉軍と織田・徳川軍は姉川の戦いで激突し、浅井・朝倉軍は敗走します（姉川の戦い）。勝利を収めた信長でしたが、難攻不落の小谷城を一気に落とすことはできず、およそ3年をかけて支城を攻略、小谷城を孤立させました。天正元年（1573）、ついに、長政は自刃、小谷城は落ちたのです。

現在、小谷周辺には、山本山、虎御前山をはじめ、往時を偲ぶ場所が点在しています。『信長公記』に「口に出しては表現できぬほど美しい眺め」とされた虎御前山からの眺めは今も褪せることなく、往時の人々との空間を共有できる素晴らしい場所として残っています。



女性のための近江戦国山城マップ小谷班  
真初金江河服銀M製作

※おとは「来やんせ! 小谷城」を熟読し、少し予習して登ることをお勧めします!

- 第1条 山城を甘く見るなかれ! 登山と思うべし!!
- 第2条 トイレは麓で行くべし!!
- 第3条 登る前の我慢は禁物! 迷ったら行くべし!!
- 第4条 登りながらのおしゃべり、大いに結構!!
- 第5条 季節や下山時間を考慮し、登るべし!!
- 第6条 出したゴミは各自持って帰るべし!!
- 第7条 火気厳禁である!
- 第8条 カモシカゲルカモ!

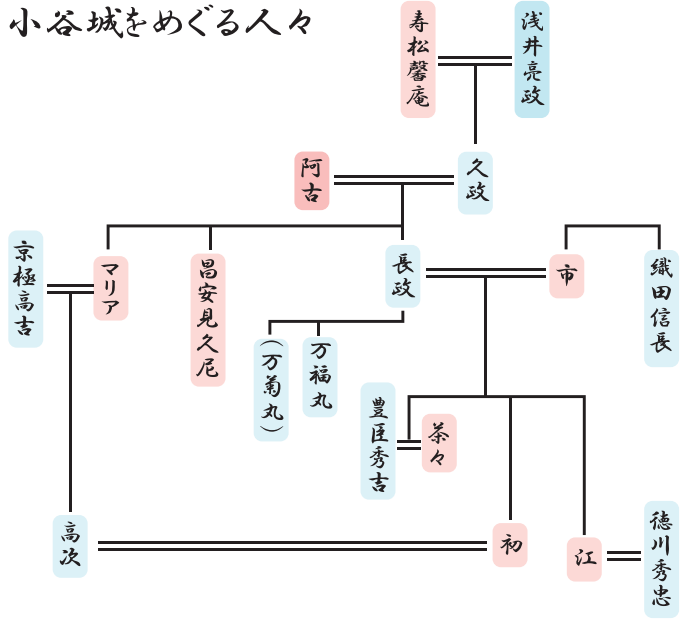


御注意!!

- 第1条 山城を甘く見るなかれ! 登山と思うべし!!
- 第2条 トイレは麓で行くべし!!
- 第3条 登る前の我慢は禁物! 迷ったら行くべし!!
- 第4条 登りながらのおしゃべり、大いに結構!!
- 第5条 季節や下山時間を考慮し、登るべし!!
- 第6条 出したゴミは各自持って帰るべし!!
- 第7条 火気厳禁である!
- 第8条 カモシカゲルカモ!



浅井長政・市画像 (滋賀県立安土城考古博物館蔵)



主らの着陣を天主にて待ち申す!!!

- ※登山口から本丸跡まで徒歩約30分
- ※山腹までシャトルバス運行中 (平成23年1月15日~12月4日)

- 車にて来る者よ!!
- 北陸自動車道 長浜IC
- ※ICから左折し国道365号線北上
- ※小谷城址に通じる林道は、マイカー乗り入れ規制アリ

- 駅からの道のり!!
- 徒歩約30分
- 湖北町タウンバス: 小谷山線 小谷城址口下車 (約10分)
- レンタサイクル: 河毛駅コミュニティハウス

- 駅から来る者よ!!
- JR北陸本線 河毛駅
- ※東海道新幹線・東海道本線からは、米原駅にて北陸本線に乗り換え
- ※京阪神方面からはJR琵琶湖線新快速が便利

いざ、小谷山に出陣せよ!!

小谷城

来やんせ

★しなやかに生き抜いた京極氏

私の夫京極高次の話をしましょう。京極氏は近江源氏として知られる佐々木氏の一族で、戦国時代、佐々木氏頼流の佐々木六角氏と並んで、近江を二分する勢力を持っていました。室町時代初期にバカラ大名と呼ばれた佐々木道誉さまは、当時の最高権力者足利尊氏さまと結び、幕府の重鎮として大いに力を揮われました。その後、幕府の四職の一つに数えられる有力守護大名になったのです。時は戦国時代となり、下剋上の波は、ここ近江の地にも押し寄せて参りました。主家の家督争いに、国人領主らの思惑や力が絡み合い、その争いに乗じて国人領主であった浅井亮政さまが一躍京極氏になりかわり、ここ小谷城を居城として近江北部の盟主となったのです。

過去の栄光にすがりながら、京極氏は浅井氏の傀儡として、この小谷城の京極氏を居城として暮らすことになりました。浅井氏が滅びたのも、京極氏は高次さまの活躍により若狭の国の大名として、末長く時代の流れに逆らうことなどしなやかに生き続けるのです。

★浅井長政とお市の方

永禄11年（1568年）、浅井・織田家の同盟の証として、浅井長政と「戦国一の美女」と謳われていたお市の方は婚姻を結びました。長政22歳、お市20歳の時です。政略結婚だったとはいえ、二人は仲睦まじかったようです。ふたりに、2011年NHK大河ドラマの主人公として放映される三女・江をよび、豊臣秀吉の側室となる長女・茶々(淀君)、京極高次の妻となる次女・初(常高院)といった、子ども達をもうけています。

長政とお市の結婚生活はわずか9年余りでしたが、ふたりの絆が深いものであったエピソードが、小谷山麓の小谷寺(浅井家3代にわたる祈願所)に残されています。山門脇の大きな「松の切り株」。これは、お市が長政と死別し、柴田勝家に嫁ぐ直前に自ら植えたものだと言われています。長政への変わらぬ想いを松の木に託し、この地を後にしたお市。その想いを受継いだ三姉妹が、ふたりの血脈を伝えていくことになるのです。

